

駒澤大学禅文化歴史博物館蔵

多田文男コレクション目録

駒澤大学禅文化歴史博物館大学史資料室

略年譜



多田文男(1900-1978)

- 明治33 (1900) 年 東京日暮里で生まれる。
- 大正 9 (1920) 年 東京帝国大学理学部地理学科に入学。
- 大正12 (1923) 年 関東大震災の後、震災地の地形調査を行う。
- 大正13 (1924) 年 同学科卒業。同大学助手に就任(理学部地理学教室勤務)。この年から昭和19 (1944) 年まで度々中国に赴き、主として乾燥地帯の地形調査を行う。
- 大正15 (1926) 年 東京帝国大学助教授に就任し、地震研究所所員として地震予知の地形的研究に従事する。
- 昭和14 (1939) 年 駒澤大学専門部高等師範科歴史地理科の兼任教員となる。
- 昭和19 (1943) 年 日本地誌学界創立、会長に就任する。
- 昭和21 (1946) 年 財団法人資源科学研究所所員を兼任する。
- 昭和28 (1953) 年 東京大学教授に就任する。
- 昭和32 (1957) 年 国際地理学連合日本会議を主催する。
- 昭和33 (1958) 年 日本地理学会会長に就任する(昭和35年まで)。
- 昭和36 (1961) 年 東京大学を定年退官。法政大学専任教授に就任する。
- 昭和41 (1966) 年 駒澤大学文学部地理歴史学科専任教授に就任する。
- 昭和53 (1978) 年 駒澤大学を定年退職。同年3月15日、死去する。

記 事

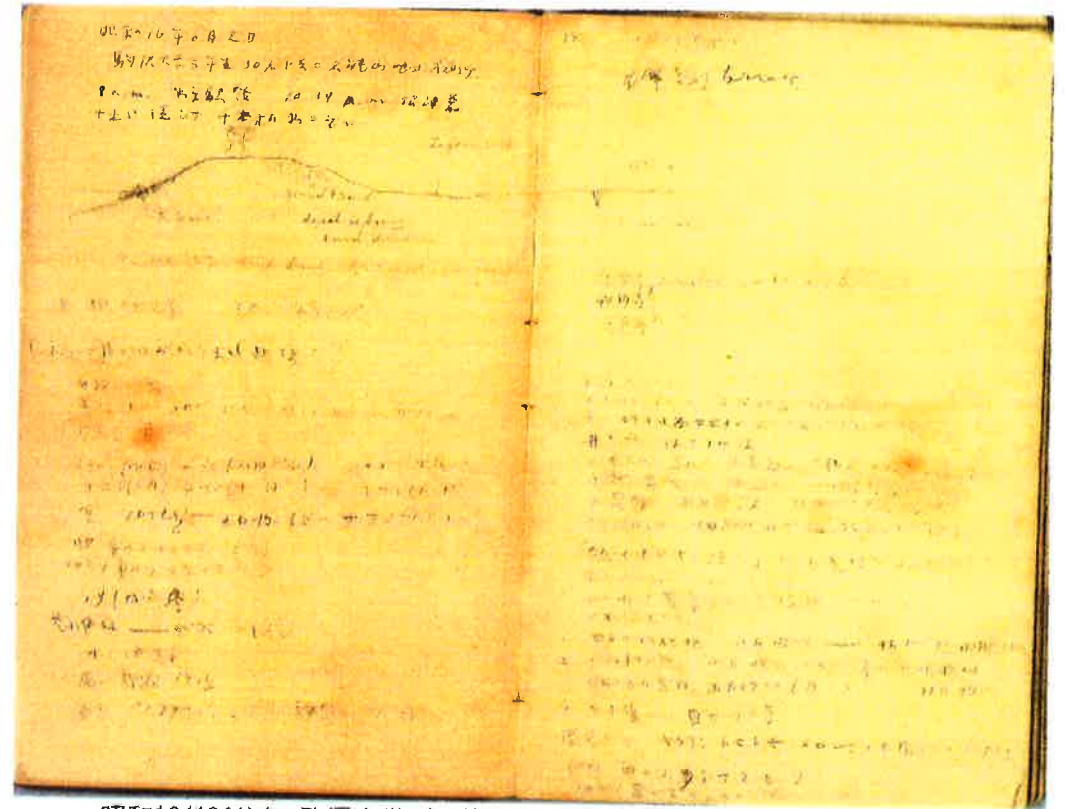
1. 1950年12月1日	1950年12月1日
2. 1951年1月1日	1951年1月1日
3. 1951年2月1日	1951年2月1日
4. 1951年3月1日	1951年3月1日
5. 1951年4月1日	1951年4月1日
6. 1951年5月1日	1951年5月1日
7. 1951年6月1日	1951年6月1日
8. 1951年7月1日	1951年7月1日
9. 1951年8月1日	1951年8月1日
10. 1951年9月1日	1951年9月1日
11. 1951年10月1日	1951年10月1日
12. 1951年11月1日	1951年11月1日
13. 1951年12月1日	1951年12月1日
14. 1952年1月1日	1952年1月1日
15. 1952年2月1日	1952年2月1日
16. 1952年3月1日	1952年3月1日
17. 1952年4月1日	1952年4月1日
18. 1952年5月1日	1952年5月1日
19. 1952年6月1日	1952年6月1日
20. 1952年7月1日	1952年7月1日
21. 1952年8月1日	1952年8月1日
22. 1952年9月1日	1952年9月1日
23. 1952年10月1日	1952年10月1日
24. 1952年11月1日	1952年11月1日
25. 1952年12月1日	1952年12月1日



(1951-1952) 吳文周君



多田文男フィールドノート



昭和16(1941)年 駒澤大学ゼミ旅行メモ (静岡県久能山) 【目録No.35】

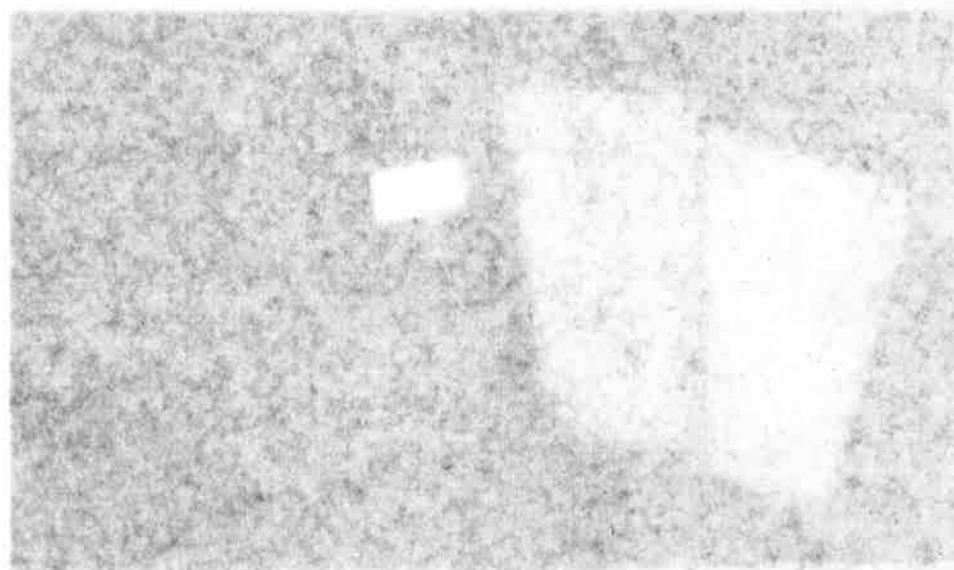
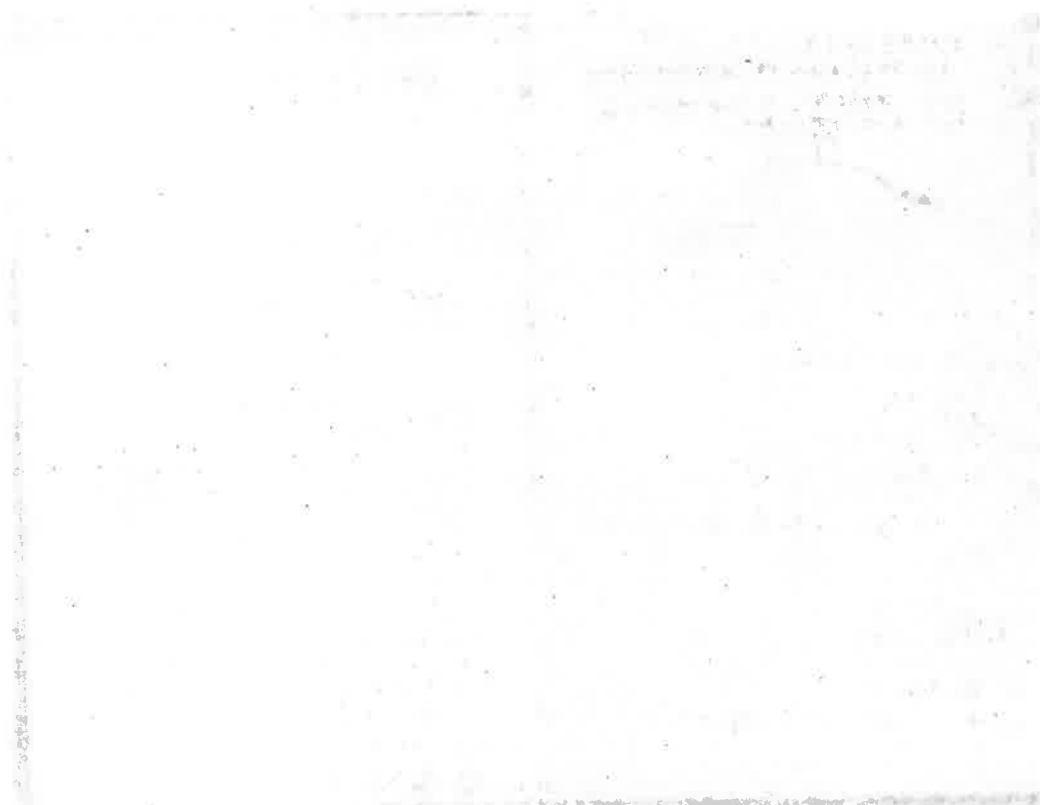


Figure 1: Comparison of the two images.

Figure 1: Comparison of the two images.

序文 ー多田先生のフィールドノートー

平成16（2004）年、2か月（6月1日ー7月30日）に地理学科・歴史学科創立75周年の記念事業として行われた禅文化歴史博物館の企画展「地歴のあゆみとその世界」の折り、上坂修夫名誉教授のご尽力によって、多田文男先生の貴重なフィールドノートを公開展示することが出来た。その後、これらのフィールドノートが先生の令夫人直子様のご厚意で、本学禅文化歴史博物館に寄贈された。

フィールドノートは、研究者個人々の野外調査に関する計画・現地観察・取材内容メモで、野外調査の推移や展望・調査中の個人行動のメモなどが含まれる。したがって、その内容には、実際に公表された学術論文や著書の基本データと同時に試行錯誤を繰り返した過程も含まれる研究者自身の調査日記でもある。きわめて個人的な機密度の高いメモで、研究者の「企業秘密文書」そのものである。したがって、研究者が現役である間、フィールドノートを全面公開することはまずあり得ない。多田先生のフィールドノートは20世紀日本の地形学の進展を紐解く上で、きわめて貴重な資料であると考えられる。

多田先生は、1920年代初頭から1970年代後半までの60年弱の間、日本の地形学を牽引した研究者であった。97冊のフィールドノートの概要をかいま見ると、日本地形学の独立と発展を支えてきた足跡が忍ばれる。大学卒業直後に遭遇した十勝岳の噴火と泥流被害、奥丹後地震の調査は、現在でも変わらないフィールドワークの基本を示してくれる。

3年にわたるドイツ留学後、1933年から1944年までの朝鮮半島・中国の東北地方（旧満州）から蒙古への探検的調査を記録した17冊のフィールドノートはきわめて貴重で、その足跡は別に本学に寄贈されている書き込みのある外邦図と対照すべきであろう。

多田先生は、戦後、荒廃した国土の回復のため、災害調査と災害復旧問題に研究テーマの中心を移し、日本における「応用地形学」を確立し、地形学が単なる純粋学問であるばかりでなく、国土整備に欠くことの出来ない学問である事に関連分野の研究者や行政に対してアピールし、日本各地の災害現場を訪問し続けた。フィールドノートの最後の日時が亡くなる前年末（1977年12月）であることから窺える。

平成17（2005）年2月1日 文学部地理学科教授 小池一之

凡 例

- 「多田文男コレクション」は、駒澤大学禅文化歴史博物館が所蔵する駒澤大学文学部地理学科教授であった多田文男の資料である。
- 本目録は、平成16（2004）年9月7日に多田直子氏（多田文男夫人）が禅文化歴史博物館に寄贈された多田文男調査フィールドノート97点および駒澤大学で所蔵していた多田文男への委嘱状2点の目録である。
- 資料の配列は編年順番とし、フィールドノートの年代はノートに記載された期間を表記した。
- 資料名は、主要な記事内容をもとに付けた。また、主要記事については目録の「主要件名」欄、表紙などに記された文字、ノートに挿入された名刺などの情報は目録の「備考」欄に記した。
- 資料の法量の単位は「cm」とした。
- 「多田文男コレクション」の整理および目録作成は、禅文化歴史博物館の熊本好宏、丸山哲也、皆川義孝が担当した。

【「多田文男コレクション」の利用】

本目録の資料を利用される場合は、事前に駒澤大学禅文化歴史博物館大学史資料室にご連絡ください。

住 所 〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1 駒澤大学内
電話03（3418）9614番

目次

目次

目 絵	1
序 文	5
凡 例	7
目 次	8
「多田文男コレクション」目録	9

目次

目次

目次

No.	資料名	年代	形態	数量	法量(縦×横)	主要件名	備考	整理番号
1	東北地方調査フィールドノート	大正12年7月13日～10月23日	冊	1	15.8×11.0	①火山岩リスト(英文)、②福島県阿武隈地方地質メモ、③山形県酒田地方地質メモ、④新潟県村上地方地質メモ、⑤新潟県新津地方地質メモ、⑥奥羽地方山脈メモ、⑦東北地方調査メモ	表紙に「東北横断」とあり。1頁に「東北日本横断、大学一年」の朱書あり。	1430-B-01
2	支那調査フィールドノート	大正13年8月以前～8月17日	冊	1	16.0×10.5	①「Physiography of Shau-heeng」等抜書、②支那調査メモ	表紙に「支那」とあり。1頁に「此帳面御拾得の方は右記に送附たまふ、支那、東京帝大理学部地理学科 多田文男」とあり。株式会社白木屋(枕)領収書、買い物メモ、挿入。	1430-B-02
3	支那調査フィールドノート	大正13年8月20日～9月22日	冊	1	15.9×10.4	支那調査メモ	表紙に「支那」とあり。中国地名メモ紙挿入。1頁に「支那 第一回 大正十三年」(朱書)、「東京帝国大理学部 多田文男」とあり。	1430-B-03
4	山梨県・三重県・神奈川県調査フィールドノート	大正13年12月以前～昭和2年9月23日	冊	1	16.3×10.3	①大正13年富士・身延地方調査メモ、②大正14年雨畑川林業地調査メモ、③伊勢・四日市地方調査メモ、④大正15年長浜地方調査メモ、⑤昭和2年鶴川調査メモ	表紙に「富士 甲斐」の朱書あり。1頁に「富士甲州伊勢」の朱書あり。	1430-B-06
5	南洋調査フィールドノート	大正14年9月17日～10月2日	冊	1	16.0×10.4	①海洋堆積物等メモ、②地質調査所報告第54号抜書、③南洋新占領地視察報告抜書、④大正14年南洋調査メモ	表紙に「南洋」の朱書あり。1頁に「南洋 大正十四年」とあり。南洋庁サイパン支庁長 南洋庁事務官和地良作名刺、田中啓爾書簡、水路部第三課長海軍大佐三戸基介名刺、挿入。	1430-B-04
6	琵琶湖・若狭・京都調査フィールドノート	大正14年10月24日～大正15年4月15日	冊	1	16.0×10.4	①人類学会総会メモ、②大正15年琵琶湖・若狭・京都地方調査メモ	表紙に「琵琶湖」の朱書あり。	1430-B-05
7	十勝岳噴火調査フィールドノート	大正15年5月31日～6月1日	冊	1	16.0×10.4	①大正14年大霊山調査概報抜書、②十勝岳噴火メモ、③星川測候所長談話メモ、④十勝岳噴火調査メモ	表紙に「十勝」とあり。正確な記録はない 爆発に就て 河野常吉氏 新聞切り抜き、十勝岳図面、挿入。	1430-B-07
8	十勝岳噴火調査フィールドノート	大正15年5月～6月 カ	冊	1	16.1×10.4	①十勝岳噴火調査メモ、②泥流調査メモ、③山部図幅	表紙に「十勝」とあり。白黒写真1枚挿入。	1430-B-08
9	鈴鹿調査フィールドノート	昭和2年1月(5日以前)～10日	冊	1	16.0×10.5	①「伊勢第三紀層に就きて」等抜書、②鈴鹿地方調査メモ	1頁に「伊勢鈴鹿」此帖面御拾得の方は乍御面倒左記に御送附願ひ上げ候 東京帝国大理学部地理学教室 多田文男」とあり。鈴鹿山脈写真、大日本帝国郵便葉書、挿入。	1430-B-12
10	丹後地震調査フィールドノート	昭和2年3月10日～5月13日	冊	1	15.0×9.8	丹後地震調査メモ	表紙に「丹後地震」の朱書あり。1頁に「丹後地震」の朱書あり。表紙と本体が分離しているので、取扱注意のこと。	1430-B-13
11	奥丹後地震調査フィールドノート	(昭和2年3月)～8月25日	冊	1	16.7×11.5	①峯山町・三重村・大野村等死傷者数一覧、②奥丹後地震調査メモ	表紙に「奥丹後地震」の朱書あり。1頁に「丹後地震」(朱書)、「東京帝国大学地震研究所 多田文男」とあり。	1430-B-14
12	伊勢鈴鹿調査フィールドノート	昭和3年1月7日～2月25日	冊	1	16.0×10.4	伊勢鈴鹿地方調査メモ	表紙に「伊勢鈴鹿」とあり。1頁に「此帖面御拾得の方は左記に御送附下され度し 東京帝国大学地震研究所 多田文男」とあり。	1430-B-15
13	鈴鹿調査フィールドノート	昭和3年3月7日～昭和36年11月3日	冊	1	16.1×10.2	①鈴鹿地方調査メモ、②昭和36年家族旅行メモ	表紙に「鈴鹿」の朱書あり。1頁に「鈴鹿地方 地震研究所 多田文男」とあり。御在所ロープウェイ乗車券、挿入。	1430-B-16

14	ヨーロッパ留学フィールドノート	昭和5年7月16日～9月22日	冊	1	16.0×10.4	ヨーロッパ留学(香港以降)メモ	表紙に「ヨーロッパ」の朱書あり。1頁に「外国行」の朱書あり。鉄道乗車券、ホテルシヨウビラ、押し花、領収書、添付。	1430-B-18
15	ドイツ留学フィールドノート	昭和6年2月27日～昭和7年2月14日	冊	1	16.2×10.6	ドイツ留学メモ	表紙に「ドイツ留学時代」の朱書あり。押し花、挿入。表紙と本体が分離しているため、取扱注意のこと。	1430-B-19
16	ヨーロッパ留学フィールドノート	昭和6年9月6日～10月20日	冊	1	14.9×9.0	ヨーロッパ留学メモ	表紙に「ヨーロッパ」の朱書あり。領収書、ホテルの解説書、葉書、挿入。	1430-B-20
17	ヨーロッパ留学フィールドノート	昭和7年2月19日～6月14日	冊	1	16.1×10.7	①ヨーロッパ留学メモ、②滞在費集計メモ	表紙に「ヨーロッパ」の朱書あり。押し花、挿入。	1430-B-21
18	スウェーデン旅行フィールドノート	昭和7年7月12日～24日	冊	1	16.0×9.9	スウェーデン旅行メモ	1頁に「1932年スウェーデン旅行」とあり。メモ紙、挿入。	1430-B-22
19	アルプス登山フィールドノート	昭和7年8月3日～15日	冊	1	16.7×10.1	アルプス登山メモ	1頁に「Alpen Exkursion 1932」とあり。山岳図、朝鮮山岳会小集会プログラム、挿入。	1430-B-23
20	ベルリンフィールドノート	昭和8年2月8日～12日	冊	1	14.8×9.4	ベルリンでの講義聴講メモ	表紙に「ベルリン東京」の朱書あり。	1430-B-24
21	熱河調査フィールドノート	昭和8年6月1日～9月3日	冊	1	15.8×10.4	①調査前打ち合わせ・準備メモ、②熱河調査メモ	表紙に「熱河」の朱書あり。1頁に「熱河行 1933 第一冊 東京帝大理学部地理 多田文男 此帳面御拾得の方は左記に御送附下されば幸甚です 多田文男 東京市目黒区駒場町九一七番地」とあり。	1430-B-25
22	熱河・朝鮮半島調査フィールドノート	(昭和8～10年) 8月18日～9月21日	冊	1	15.9×10.5	中国広州地方・朝鮮半島地形調査メモ	表紙に「熱河朝鮮」の朱書あり。1頁に「熱河朝鮮」の朱書あり。土地利用図(作図)、挿入。	1430-B-27
23	熱河調査フィールドノート	昭和8年9月5日～10月5日	冊	1	15.9×10.4	熱河調査メモ	表紙に「熱河」の朱書あり。1頁に「熱河行 1933 第二巻 東京帝国大学理学部多田文男 満蒙学術調査研究団 此帳面御拾得の方は左記に御送附を乞う 御礼申します 多田文男 東京市目黒区駒場町」とあり。	1430-B-26
24	熱河調査フィールドノート	(昭和8年カ) 10月7日～12月16日	冊	1	15.9×10.3	熱河調査フィールドノート	表紙に「熱河」の朱書あり。1頁目に「熱河」の朱書、「満蒙学術調査研究団 多田文男 東京帝国大学理学部地理学教室 多田文男」とあり。一部分離のため取扱注意のこと。	1430-B-87
25	資源科学研究所・地理学研究室名簿記録ノート	昭和9年1月	冊	1	18.0×12.7	①地理人類研究室住所録、②灌漑水温上昇委員会メモ	表紙に「資源科学研究所・地理学研究室・名簿」とあり。	1430-B-52
26	朝鮮半島調査フィールドノート	昭和10年10月15日～昭和12年10月23日	冊	1	15.5×10.8	①昭和10年朝鮮半島調査メモ、②朝鮮半島河川リスト、③地質図、④昭和11年朝鮮半島調査メモ、⑤昭和12年朝鮮半島調査メモ、⑥九州・四国地方山脈標高メモ	表紙に「朝鮮」の朱書あり。	1430-B-28
27	瀬戸内海・三陸調査フィールドノート	昭和12年～昭和15年3月22日	冊	1	15.7×10.2	①昭和13年瀬戸内海調査メモ、②大塚弥之助「日本の海岸線の発達に関する考へ」等抜書、③昭和13年三陸調査メモ、④昭和14年仙台学会参加記、⑤昭和15年芸予諸島調査メモ	表紙に「三陸及瀬戸内」の朱書あり。表紙と本体分離のため取扱注意のこと。	1430-B-29
28	京城大学蒙古調査フィールドノート	昭和13年7月21日～9月4日	冊	1	15.8×10.2	①10万分1地形図一覽(林西等)、②蒙古調査日程表、③昭和13年7月21日からの調査メモ	表紙に「京城大学 蒙古行」の朱書あり。	1430-A-1

29	北支・蒙疆旅行調査フィールドノート	昭和13年8月20日～ 昭和14年8月4日	冊	1	15.8×10.6	①昭和13年北支・蒙疆調査メモ、②昭和14年黄土調査メモ	表紙に「北支・蒙疆」の朱書あり。1頁に「北支・蒙疆旅行 昭和十三年八月 東京帝国大学理学部地理学教室 多田文男 此帳面御拾得の方は御送附願ひ上げます。厚く御礼申し上げます。」とあり。表紙と本体分離のため取扱注意のこと。	1430-B-30
30	包頭・山西調査フィールドノート	昭和14年8月6日～ 昭和14年9月5日	冊	1	16.9×10.3	①内蒙古包頭調査メモ、②内蒙古包頭調査日程表、③上流黄河航運事情、④山西方面調査日程表、⑤山西地方調査メモ	表紙に「包頭」と朱書あり。1頁に「此帳面御取得の方は左記へ御送附願ひます 東京帝国大学理学部地理学教室 多田文男」とあり。	1430-B-31
31	砂粒度調査フィールドノート	昭和14年～昭和16年	冊	1	15.9×10.4	①昭和14年～15年満蒙・中国・国内等の砂粒度分析表	表紙に「砂 沙漠」の朱書きあり。1頁に「砂 沙漠」とあり。	1430-B-37
32	関東地方調査フィールドノート	昭和15年1月14日～ 昭和25年3月24日	冊	1	16.0×10.4	①秦野盆地調査メモ、②銚子調査メモ、③拜島調査メモ、④溝口調査メモ、⑤荒川調査メモ、⑥論文作成メモ、⑦科学研究会議メモ、⑧隣組長会議メモ、⑨千葉県九十九里周辺調査メモ、⑩八日市場周辺調査メモ、⑪渡良瀬川流域調査メモ、⑫利根川流域調査メモ	表紙に「関東」と朱書、「関東」とあり。1頁に「関東 多田文男」とあり。表紙と本体が分離しているので、取扱注意のこと。	1430-B-32
33	渾善達克沙漠調査フィールドノート	昭和15年7月13日～ 昭和24年9月20日	冊	1	16.7×10.4	①渾善達克沙漠調査メモ、②渾善達克沙漠調査日程表、③東亜研究所第四回調査委員会第三部会北支調査予定表	表紙に「沙漠」と朱書、「地理」とあり。1頁に「渾善達克沙漠 東京帝国大学理学部 多田文男」とあり。表紙と本体が分離しているので、取扱注意のこと。	1430-B-33
34	静岡県小笠郡・横須賀地方地下水調査フィールドノート	昭和15年8月9日～ 昭和15年9月12日	冊	1	16.9×10.4	①黄土調査日程表、②化稍菅周辺地質調査メモ、③化稍菅周辺地下水調査メモ、④化稍菅鎮平面図2点、⑤張家口地下水調査メモ、⑥蒙疆の地下水について研究メモ	表紙に「黄土 沙漠」と朱書、「地理 多田」とあり。1頁に「黄土調査 昭和十五年八月九日 多田文男」とあり。表紙と本体が分離しているので、取扱注意のこと。	1430-B-34
35	久能山他東海地方調査フィールドノート	昭和15年10月17日～ 昭和27年1月15日	冊	1	16.0×10.5	①久能山の地形について、②昭和15年久能山旅行、③昭和16年久能山駒澤大学ゼミ旅行、④登呂遺跡調査メモ、⑤上ノ平開拓について、⑥昭和23年豊橋市爪郷遺跡調査メモ、⑦昭和27年狩野原平野調査メモ、⑧昭和25年伊豆韮山遺跡調査メモ、⑨昭和26年長岡遺跡調査メモ	表紙に「久能 東海」の朱書あり。1頁に「久能山其他 多田文男」とあり。表紙と本体が分離しているので、取扱注意のこと。	1430-B-35
36	資源科学諸学会連盟地理学部委員委嘱状	昭和16年2月12日	状	1	28.1×20.0		駒澤大学旧蔵資料。	1430-C-1
37	資源科学諸学会連盟調査委嘱・調査依頼状	昭和16年2月14日	状	1	25.6×17.8		駒澤大学旧蔵資料。	1430-C-2
38	青森県鯉ヶ沢調査フィールドノート	昭和16年4月3日～ 昭和17年8月22日	冊	1	15.7×10.4	①昭和16年鯉ヶ沢調査メモ、②昭和17年大和田周辺調査メモ	表紙に「鯉ヶ沢」の朱書あり。1頁に「鯉ヶ沢一十三」、「東京帝国大学理学部地理学教室 多田文男」とあり。	1430-B-36
39	渾善達克沙漠調査フィールドノート	昭和16年6月～8月8日	冊	1	16.5×10.3	①沙漠調査費用、②調査前打ち合わせメモ、③黄土班・沙漠班借用希望、④黄土調査費用、⑤黄土調査会より入金、⑥7月13日からの調査メモ	表紙に「沙漠Ⅱ 多田」の朱書あり。「法政大学出席調査票」(ピンク)1枚挿入。	1430-A-2
40	満蒙渾善達克砂丘調査フィールドノート	昭和16年7月23日～ 昭和16年8月13日	冊	1	15.8×10.3	①昭和16年度第2回渾善達克砂丘調査班名簿、②昭和16年度渾善達克砂丘調査日程表、③昭和16年度渾善達克砂丘調査結果、④昭和16年度渾善達克砂丘調査メモ、⑤昭和16年度渾善達克砂丘調査費等メモ	表紙に「沙漠Ⅲ 多田」の朱書あり。1頁に「東京帝国大学理学部 多田文男 昭和十六年八月」とあり。	1430-B-38
41	満州熱河周辺調査フィールドノート	昭和16年7月27日～ 昭和16年9月9日	冊	1	15.6×9.8	昭和16年満州調査粒状分析一覧	表紙に「蒙古山西粒度分析」の朱書あり。	1430-B-41

42	満蒙調査フィールドノート	昭和16年8月17日～ 昭和16年9月16日	冊	1	15.3×10.1	昭和16年満州張家口他調査メモ	表紙に「山西 蒙疆」の朱書あり。4頁に「昭和十六年度 黄土調査行 東京帝国大学理学部 多田文男」とあり。表紙と本体が分離しているので、取扱注意のこと。	1430-B-39
43	満州熱河周辺調査フィールドノート	昭和16年9月17日～ 昭和19年9月5日	冊	1	15.3×10.1	①昭和16年満州調査メモ、②昭和19年満州地質調査メモ	表紙に「熱河 北満」の朱書あり。3頁に「北満洲調査行 黄土調査行 東京帝国大学理学部 多田文男 起昭和十六年九月」とあり。表紙と本体が分離しているので、取扱注意のこと。	1430-B-40
44	満州山西周辺調査フィールドノート	昭和17年4月23日～ 昭和17年7月5日	冊	1	15.6×9.8	①第一次山西学術調査研究団名簿、②第一次山西学術調査研究調査メモ	表紙に「山西」と朱書、「山西 多田 昭十七年」とあり。	1430-B-42
45	満州山西周辺調査フィールドノート	昭和17年5月22日～ 昭和17年6月20日	冊	1	15.6×9.9	①山西五台山旅行予定、②第二次五台地区調査研究メモ、③山西学術調査研究団報告会予定表	表紙に「山西」と朱書、「山西II 多田 昭十七年」とあり。1頁に「山西五台山 東京帝国大学理学部 多田文男 御拾得の方はご送付願います」とあり。	1430-B-43
46	満州南部調査フィールドノート	昭和17年8月13日～ 昭和17年9月24日	冊	1	15.6×9.9	①遼陽調査メモ、②齊々哈爾地質調査メモ、③砂丘地方踏査雑感、④粒度分析表、⑤北支ノ乾燥状と黄土	表紙に「満洲」と朱書あり。1頁に「此帳面御取得の方左記に御送り願います 東京都世田谷区北沢二一六五 多田文男」とあり。表紙と本体が分離しているので、取扱注意のこと。	1430-B-44
47	砂丘調査フィールドノート	昭和17年12月26日～ 昭和38年1月4日	冊	1	15.6×9.9	①横須賀市周辺調査メモ、②天竜川調査メモ、③粕壁調査メモ、④鹿島砂丘調査メモ、⑤鬼怒川河畔調査メモ、⑥米子鳥取砂丘調査メモ、⑦利根川河岸地域調査メモ、⑧千葉県笹川調査メモ	表紙に「砂丘 内地 多田」と朱書あり。2頁に「東京帝国大学助教授 多田文男 日本内地砂丘」とあり。表紙と本体が分離しているので、取扱注意のこと。	1430-B-45
48	関東ローム調査フィールドノート	昭和19年5月15日～ 昭和24年9月15日	冊	1	18.2×13.0	①越後湯沢調査メモ、②関東ローム基底調査メモ、③利根川渡良瀬川周辺調査メモ	表紙に「関東」と朱書、「関東 武蔵野 桐生 平 昭24.9.15 昭24.9.20 多田文男 東京帝国大学理学部 地理学教室」とあり。「栃木県那須郡湯津上村佐良土 小笠原義勝」のメモ挿入。	1430-B-46
49	静岡県小笠郡・横須賀地方地下水調査フィールドノート	昭和19年5月15日～ 昭和24年9月15日	冊	1	18.2×13.0	①静岡県小笠郡・横須賀地方地下水調査分析一覧、②静岡県小笠郡・横須賀地方地下水調査メモ	表紙に「遠州」と朱書、「遠州横須賀地方 砂丘調査 地下水調査 多田文男」とあり。1頁に「静岡県小笠郡横須賀地方地下水調査」のメモ挿入。	1430-B-47
50	長野県諏訪郡調査フィールドノート	昭和20年8月24日～ 昭和20年9月27日	冊	1	15.2×10.6	①諏訪の家屋構造メモ、②諏訪郡玉川概況メモ、③長野県諏訪郡調査メモ	表紙に「スワ」（朱書）、「信州」とあり。	1430-B-48
51	上田調査フィールドノート	昭和23年7月25日～	冊	1	15.0×10.5	上田盆地調査メモ	表紙に「上田」と朱書あり。落書きあり。	1430-B-54
52	北上川洪水・迫川洪水調査フィールドノート	(昭和24年) 1月6日～6月6日	冊	1	18.2×12.7	①北上川洪水調査メモ(昭和23年洪水)、②迫川調査メモ	表紙に「北上川洪水・迫川洪水 多田文男」とあり。	1430-B-50
53	濃美・伊良湖調査フィールドノート	(昭和24年) 4月14日～ 昭和25年10月26日	冊	1	17.5×12.5	①参考文献メモ、②昭和24年調査メモ、③昭和25年調査メモ	表紙に「濃美・伊良湖」と朱書あり。表紙に「濃美・伊良湖 多田文男」とあり。資源科学研究所地理学研究室フィールドノートを使用。カステラ饅頭広告1枚、挿入。	1430-B-56

64	丸亀塩田調査フィールドノート	昭和24年4月15日～ 昭和39年1月8日	冊	1	17.8×12.5	①丸亀開墾塩業株式会社の塩業調査メモ、②人口問題メモ	表紙に「四国 多田文男」とあり。「資源科学研究所 地理学研究室」ノート使用。表紙と本体が分離しているため、取扱注意のこと。	1430-B-68
65	九州調査フィールドノート	昭和24年12月23日～ 30日	冊	1	15.8×10.2	①熊本に於ける問題メモ、②九州調査メモ（関関・鷺見岳・鱒池・辻ノ岳・成川盆地・太隈半島）	表紙に「九州」とあり。落書きあり。1頁に「九州 多田文男」とあり。原稿用紙メモ1枚挿入。	1430-B-55
66	信濃・尾張調査フィールドノート	昭和25年7月31日～ 昭和29年2月2日	冊	1	17.4×12.6	①昭和25年8月調査メモ、②昭和25年調査メモ、③昭和29年調査メモ	表紙に「濃美・伊良湖 F. Tada」とあり。資源科学研究所 地理学研究室フィールドノートを使用。「東京帝国大学助教授兼文部省資源化学研究所員 理学博士 多田文男」名刺1枚、炭泥の灼熱減量メモ2枚、挿入。	1430-B-57
67	シラス調査フィールドノート	昭和25年8月12日～ 昭和30年1月16日	冊	1	16.8×9.5	①昭和25年8月調査メモ、②昭和27年調査メモ、③昭和28年調査メモ、④昭和30年調査メモ	表紙に「シラス」とあり。1頁に「シラス」とあり。「日田市建設課庶務課長 清原夏男」名刺1枚、炭泥の灼熱減量メモ2枚、挿入。	1430-B-58
68	関東調査フィールドノート	昭和26年1月9日～ 昭和29年3月28日	冊	1	17.5×12.5	①昭和26年1月松江調査メモ、②昭和26年2月調査メモ③昭和29年3月調査メモ	表紙に「関東 多摩川」とあり。表紙に「関東」と朱書あり。資源科学研究所 地理学研究室フィールドノート使用。「日田市建設課庶務課長 清原夏男」名刺1枚、炭泥の灼熱減量メモ2枚、挿入。	1430-B-59
69	兵庫県塩田調査フィールドノート	昭和26年9月16日～ 18日	冊	1	17.5×10.4	兵庫県塩田調査メモ	表紙に「中国地方」とあり。1頁に「中国地方 塩田」とあり。	1430-B-86
70	毒水調査フィールドノート	(昭和26年)12月21日～昭和27年6月22日	冊	1	17.5×12.5	①年末詳12月吾妻山毒水調査メモ、②昭和27年6月調査メモ	表紙に「毒水 多田文男」とあり。資源科学研究所 地理学研究室フィールドノートを使用。「ジークライト化学鉱業株式会社 板谷工場 佐藤久七」名刺1枚挿入。随所に子供の落書きあり。	1430-B-61
71	伊那調査フィールドノート	昭和27年5月26日～ 昭和29年7月24日	冊	1	16.7×9.7	①昭和27年5月調査メモ、②昭和29年7月調査メモ	表紙に「伊那」とあり。1頁に「信州諏訪」と朱書あり。1頁に「信州伊那盆地 東京大学理学部 多田文男」とあり。	1430-B-60
72	常願寺川調査フィールドノート	昭和27年8月18日～	冊	1	17.5×12.5	①常願寺川調査メモ、②常願寺川問題メモ	表紙に「常願寺川」とあり。資源科学研究所 地理学研究室フィールドノートを使用。多田文男筆、石井逸太郎（富山市永楽町9）宛葉書1枚挿入。内容は調査中発見した木片の判定結果報告。	1430-B-62
73	奥羽調査フィールドノート	昭和28年7月12日～ 昭和29年4月	冊	1	17.5×12.5	①参考文献メモ、②昭和28年7月12日茨城調査メモ、③昭和28年4月北上川調査メモ	表紙に「奥羽地方 囑託 多田文男」とあり。資源科学研究所 地理学研究室フィールドノートを使用。	1430-B-63
74	北海道文献調査フィールドノート	昭和29年8月29日～ 9月6日	冊	1	17.5×12.5	①地理人類研究室住所録、②地質表、③昭和29年美瑛・富良野地方調査メモ	表紙に「北海道文献 多田文男」とあり。資源科学研究所 地理学研究室フィールドノートを使用。	1430-B-64

65	水害調査フィールドノート	(昭和29年)12月12日～昭和30年10月21日	冊	1	17.0×11.0	①研究員制度メモ、②見学メモ(本日の見学地方(1)東京・埼玉・千葉・茨城・栃木、(2)ローム台地、(3)沖積平野地質表、③6月18日長期研究委員会メモ、④7月9日毒水メモ、⑤地理学総合委員会メモ、⑥7月30日水害地域分科会メモ、⑦昭和31年8月11日土地部会メモ、⑧昭和31年8月14日～野辺地調査メモ、⑨昭和31年8月16日下北半島調査メモ、⑩9月15日三島調査メモ、⑪水分会メモ	表紙に「水害」と朱書きあり。バインダー形式のノート使用。	1430-B-65
66	ブラジル調査フィールドノート	(昭和31年)7月16日～9月20日	冊	1	17.5×9.2	ブラジル調査メモ(①7月16日Lima 着～8月5日)、②9月20日Real de ManausからRioに向かう	表紙に「ブラジル」とあり。裏表紙に「ブラジル行 多田文男」とあり。	1430-B-70
67	ブラジル調査フィールドノート	昭和31年8月23日～昭和31年9月15日	冊	1	17.6×9.4	①調査日程表、②ペールリマ調査メモ、③ブラジリアマゾン川流域モンテアレグレ調査メモ、④ブラジルマカバ調査メモ、⑤バエス教授宛礼状下書き	表紙に「ブラジル」と朱書きあり。1頁に「Amazonas Excursion VIII /56 Fumio Tada」とあり。	1430-B-71
68	ブラジル・ボリビア・ペルー調査フィールドノート	昭和31年9月16日～昭和31年10月7日	冊	1	17.6×9.4	①ブラジリアマウス調査メモ、②ボリビアサンタクルス沖縄移民調査メモ、③ボリビアラパス調査メモ、④ペルーリマ調査メモ、⑤国際会議出席メモ	表紙に「ブラジル」と朱書きあり。1頁に「Brazil-Bolivia-Peru-NewYork-Los Angeles-Honolulu-Tokyo Fumio Tada IX-X, 1956 東京大学理学部 多田文男」とあり。	1430-B-72
69	茨城県調査フィールドノート	昭和31年12月16日	冊	1	17.5×12.5	茨城県多賀郡南中郷村 和久地区陥没調査メモ	資源科学研究所 地理学研究室 フィールドノートを使用。	1430-B-66
70	鉱害問題調査フィールドノート	昭和31年12月16日～17日	冊	1	16.5×9.4	①鉱害問題メモ、②茨城県多賀郡南中郷村 和久地区陥没調査メモ ポーリング記録	表紙裏に「Dec. 1955～」とあり。1430-B-66の調査時に使用したと思われる。	1430-B-67
71	スイス国際地理学会フィールドノート	昭和32年1月8日～昭和33年5月27日	冊	1	18.2×12.8	①嘉瀬川調査メモ、②岡山・広島県出張メモ、③日田盆地調査メモ、④沼田盆地調査メモ、⑤国際地理学会出席メモ於スイス、⑥国際地理学会参加日程表	表紙に「スイス行」と朱書きあり。1頁に「1958年 スイス行」とあり。押し花1点、営団地下鉄回数乗車券1点挿入。	1430-B-73
72	ドイツ・イギリス調査フィールドノート	昭和34年5月15日～昭和35年8月23日	冊	1	15.6×9.5	①1959年アレクサンダー・フォン・フンボルト祭行メモ、②1960年スウェーデン行メモ、③1964年イギリス行メモ	裏表紙に「Fumio Tada Tokyo Japan Passport 625918 2/7/1964 発行 大平正芳 Congress 2745」とあり。1頁にパスポート番号2件、「アレキサンダーフンボルト祭 1959 スウェーデン行 1960 イギリス行1964」とあり。国際地理学連合会議資料B5版2枚、「Pension Paisiello Parioli」名刺1枚、挿入。	1430-B-74
73	岡山調査フィールドノート	昭和35年5月31日～昭和37年12月25日	冊	1	18.5×11.5	①昭和35年鳥取県調査メモ、②昭和37年岡山県調査メモ	表紙に「岡山」とラベルあり。	1430-B-75
74	北関東調査フィールドノート	昭和35年6月18日～昭和37年12月25日	冊	1	18.5×11.5	①昭和35年中ノ茶町付近調査メモ、②昭和35年沼田調査メモ、③昭和39年湯口地方 月夜野調査メモ、④昭和36年上州上牧・大峯山地方調査メモ、⑤昭和37年富岡・荒船・小諸調査メモ、⑥沼田調査メモ、⑦昭和40年富岡一の関調査メモ、⑧昭和50年北関東山地巡検メモ	表紙に「北関東」とあり。1頁に「北関東」とあり。時刻表メモ1枚挿入。	1430-B-76
75	関東地方調査フィールドノート	昭和36年5月3日～昭和42年2月22日	冊	1	18.5×11.2	①関東地方農地調査メモ、②水害研究メモ、③茨城県猿島郡江川遺跡調査メモ、④足尾山地調査メモ、⑤埼玉県河岸調査メモ	表紙に「関東」とあり。1頁に「West Asia 関東 桐生 名栗川 秩父 碓氷川」とあり。	1430-B-81
76	ギリシア・マレイ調査フィールドノート	昭和37年3月31日～昭和37年10月8日	冊	1	14.7×9.5	①Kuala Lumpur行 1962年3月31日-4月18日調査メモ、②Athens行 1962年9月13日-10月8日調査メモ	表紙に「ギリシア・マレイ」のラベルあり。1頁に「Fumio Tada Tokyo Japan Passport 40212号 東京31/august/1962 ギリシア行 馬来行」とあり。	1430-B-77
77	下北調査フィールドノート	昭和38年6月29日～昭和50年7月16日	冊	1	18.5×11.5	①昭和38年下北調査メモ、②昭和50年下北半島巡検メモ	表紙に「下北」とあり。1頁に「下北 東京都世田谷区北沢1-4-2 多田文男」とあり。	1430-B-78

78	北陸調査フィールドノート	(昭和38年)6月30日～昭和40年11月6日	冊	1	18.5×11.5	①昭和38年6月調査メモ、②昭和38年8月猪苗代調査メモ、③昭和38年10月福井九頭竜川調査メモ、④昭和40年9月敦賀調査メモ、⑤昭和40年11月福井調査メモ	表紙に「北陸」とあり。1頁に「北陸地方 多田文男」とあり。	1430-B-79
79	埼玉、北海道調査フィールドノート	昭和39年9月26日～9月30日	冊	1	18.5×11.5	昭和39年武州松山付近調査メモ	表紙に未記入ラベルとあり。	1430-B-80
80	新潟地震調査フィールドノート	(昭和39年)10月27日～11月12日	冊	1	16.2×10.4	新潟地震調査メモ	表紙に「越後地震」とあり。1頁に「越後」とあり。	1430-B-17
81	四国調査フィールドノート	昭和40年7月24日～昭和44年4月1日	冊	1	18.5×11.2	①吉野川流域調査メモ、②四万十川調査メモ、③高知参旅行日程メモ	表紙に「四国 吉野川 四万十川」とあり。1頁に「四万十川 四国吉野川流域 多田文男」とあり。	1430-B-82
82	岐阜県・三重県調査フィールドノート	(昭和41年以前)7月9日～昭和41年11月4日	冊	1	16.0×10.3	①岐阜調査メモ、②伊賀上野地方調査メモ、③伊賀地方の地質、④昭和41年瀬戸断層地形調査メモ	表紙に「伊勢・伊賀・美濃」とあり。1頁に「伊勢・伊賀・美濃」の朱書あり。	1430-B-09
83	東京・神奈川・千葉・埼玉調査フィールドノート	昭和41年10月21日～昭和47年6月16日	冊	1	16.4×10.3	①昭和41年滝の川・石神井川バイパス周辺調査メモ、②三浦半島地形図(作図)、③横浜-三浦半島第四紀地層、④地形発達史、⑤延方千拓地見学メモ、⑥埼玉県東都地方都市化資源保全見学メモ	表紙に「東京」とあり。駒澤大学文学部地理学教室フィールドノートを使用。	1430-A-3
84	青森・秋田・山形調査フィールドノート	昭和41年11月22日～昭和49年8月27日	冊	1	16.4×10.3	①講義スケジュールメモ、②昭和41年青森県平川流域調査メモ、③昭和43年秋田営林署調査メモ、④昭和44年相乗温泉調査メモ、⑤昭和47年青森調査メモ、⑥昭和49年津軽調査メモ	表紙に「東北弘前」の貼紙あり。駒澤大学文学部地理学教室フィールドノートを使用。	1430-A-4
85	山形県・福島県会津調査フィールドノート	昭和42年7月4日～昭和51年8月11日	冊	1	16.4×10.3	①昭和42年資源調査会治山治水特別部会第1回調査メモ(山形県)、②昭和42年山形調査メモ、③地質調査所報告第161附図3、④昭和47年日本地理学会山形大会メモ、⑤昭和51年福島県会津調査メモ	表紙に「東北山形」とあり。駒澤大学文学部地理学教室フィールドノートを使用。	1430-A-8
86	北海道調査フィールドノート	昭和42年8月16日～昭和46年8月24日	冊	1	16.4×10.3	①昭和42年水利科学研究所北見調査メモ、②昭和44年資源科学研究所総合研究調査メモ、③仙台日本地理学会メモ、④昭和46年北海道常呂川流域調査メモ、⑤船盗用漢	駒澤大学文学部地理学教室フィールドノートを使用。	1430-A-5
87	タイ・インド・台湾・韓国調査フィールドノート	昭和43年10月25日～昭和45年4月8日	冊	1	16.3×10.2	①昭和43年タイ・インド・台湾旅行メモ、②昭和45年韓国旅行メモ	表紙に「インド 台湾 1968 朝鮮 1970」の貼紙あり。駒澤大学文学部地理学教室フィールドノートを使用。韓国海印寺、徳寿宮のほか、大韓航空パンフレット、韓国国立博物館入場券、挿入。	1430-B-85
88	岩手県水沢営林署管内調査フィールドノート	昭和44年8月4日～8日	冊	1	16.4×10.2	①昭和44年水沢営林署管内調査メモ、②尿前川地域の地り調査報告、③建設省管理所長舞石満幸氏聞き取りメモ、④蜂谷地り地層図、⑤尿川地り防止調査、⑥昭和42年岩手県肝沢郡肝沢村字横浜前山地り調査報告、⑦尿前地層図、⑧主要地り地層地層図、⑨肝沢川流域崩壊地調査メモ、⑩昭和42年豪雨災害と地質、⑪有田川・伊理川両水系の崩壊、⑫能登半島における地上りの基礎的研究、⑬昭和42年豪雨災害と地質、⑭表層地質と開発および保全との関係	表紙に「焼石岳地り」の貼紙あり。駒澤大学文学部地理学教室フィールドノートを使用。	1430-A-6
89	白山・甲府調査フィールドノート	(昭和45年)7月31日以前～昭和47年3月20日	冊	1	17.6×12.8	①白山山麓調査聞き取りメモ、②法面保護委員会メモ、③甲府盆地地質調査メモ	資源科学研究所地理学研究室ノートを使用。	1430-B-84
90	長野県調査フィールドノート	昭和46年10月1日～昭和51年8月19日	冊	1	16.4×10.2	①昭和46年日本地理学会鹿児島大会参加メモ、②昭和49年日本地理学会富山大会参加メモ、③昭和46年長野県上田・望月地方調査メモ、④昭和49年長野県上田調査メモ、⑤昭和51年長野県小県郡地域調査メモ	表紙に「昭和46年 昭和四十九年 上田」の貼紙あり。駒澤大学文学部地理学教室フィールドノートを使用。	1430-A-7
91	中部調査フィールドノート	昭和47年4月24日～昭和52年12月10日	冊	1	18.5×11.7	①静岡御前崎調査メモ、②愛知名古屋調査メモ、③福井真野川調査メモ、④御前崎調査メモ	表紙に「中部地方」と朱書、「中部」とあり。	1430-B-83

92	北海道調査フィールドノート	昭和47年7月9日～ 昭和49年7月3日	冊	1	16.4×10.2	①昭和47年襟裳岬調査メモ、②昭和47年北海道層雲峡調査メモ、③昭和27年襟裳岬等調査メモ、④昭和49年石狩砂丘調査メモ、⑤都市生活環境の保全と森林との関連に関する調査報告	表紙に「北海道」とあり。駒澤大学文学部地理学教室フィールドノートを使用。	1430-A-9
93	北上特定地域総合開発の基礎調査日程(案)	(年未詳)4月4日～8日	冊	1	35.5×24.9	北上特定地域総合開発の基礎調査日程(案)(東京大学総合地理学研究会)	上下に2種の調査行程案が記されているが、下部の調査タイトルは判読不明。	1430-B-88
94	北海道駒ヶ岳調査フィールドノート	(年未詳)6月21日～26日	冊	1	16.0×10.4	駒ヶ岳調査メモ	表紙に「北海道駒ヶ岳」とあり。1頁に「北海道駒ヶ岳 多田文男」とあり。大日本帝国郵便はがき、駒ヶ岳ネガ、挿入。	1430-B-10
95	南紀調査フィールドノート	(年未詳)7月14日～27日	冊	1	16.2×10.3	①那智図幅地質説明書等抜書、②南紀調査メモ	表紙に「南紀」とあり。1頁に「南紀」の朱書あり。	1430-B-11
96	灌漑水温上昇委員会フィールドノート	(年未詳)7月29日	冊	1	17.5×12.5	灌漑水温上昇委員会メモ	表紙に「水温(朱書) 多田文男」とあり。地質調査書フィールドノート使用。名刺13枚(「山形県農地部部耕地課長 佐藤信一郎」、「山形県農地部部耕地課技師 前田豊」、「山形県農地部部耕地課 技師 中島友治郎」、「福島県耕地課長 柴田道生」、「山形県議会議経常任副委員長 鈴木龍雄」、「福島県技師 澁井只三」、「東南置賜地方事務所耕地係長 佐藤清」、「東南置賜地方事務所所長 松田兄次郎」、「農林開拓研究所 農林技官 近藤頼己」、「農林省農地局建設部設計課 農林技官 長 高連」、「吾妻鉱業株式会社西吾妻鉱業所次長 橋本七郎」、「糖野目村助役 星忠榮」、「大学学術局研究助成課 田中成雄」)挿入。	1430-B-53
97	東北水害調査フィールドノート	(年未詳)11月24日～12月2日	冊	1	17.8×10.6	①調査スケジュールメモ、②調査メモ	表紙に「東北水害(朱書) 東北水害調査 多田文男」とあり。地質調査所フィールドノートを使用。	1430-B-51
98	関東・三浦調査フィールドノート	年月日未詳	冊	1	17.5×12.5	三浦半島調査メモ	表紙に「東京都 大久保 関東三浦 多田文男」とあり。「関東三浦」朱書きあり。資源科学研究所 地理学研究室フィールドノートを使用。	1430-B-69
99	千葉県白浜地方調査フィールドノート	年月日未詳	冊	1	15.8×10.2	千葉県白浜地方調査メモ	表紙に「房総」と朱書あり。1頁に「大磯茶屋町1247 Lorch」とあり。郵便葉書3点・写真1点挿入。	1430-B-49

駒澤大学禅文化歴史博物館蔵

多田文男コレクション目録

発行日 平成17(2005)年2月1日

編集・発行 駒澤大学禅文化歴史博物館大学史資料室

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1駒澤大学内
電話03(3418)9614番

